## ■■■　工場見学の外国人差別　■■■

2013年12月から2014年3月まで「在日ベトナム人高齢者の外出支援事業」をすることになりました。事業の内容は「外出」なので社会見学も取り入れました。社会見学は以前に大変人気だった工場見学にしました。

2014年1月7日（火）に神戸周辺の工場をインターネットで調べたら、生活に必要な洗剤・歯磨き・歯ブラシなどの「ライオン明石工場」を見つけたので予約の電話をしました。電話に出たのは受付のAさんでした。電話の一部の内容は「どのような団体ですか」→「外国人を支援する団体で、見学希望はベトナム人高齢者です」→「外国人を受けてないです」。これを聞いて「問題発言だなあ」と思いながら、私は「海外から来た外国人ではなくて、日本に20年、30年住んでいる在日外国人ですけど」と話しても「外国人を受ける体制になってない」と断られました。私は「外国人差別されたなあ。ほっとけないけど、後で対応しよう」と考えながら他の工場を探しました。他では「説明は日本語また英語になりますが大丈夫ですか」または「ベトナム語での説明はできないですがいいですか」と言われましたが「ライオン明石工場」のような対応はありませんでした。

1月15日にKFCの運営会議でこの話をしたら、すぐ理事長がライオン明石工場（見学係）に電話することになりました。そこで確認したところ、受付したAさんがそのように対応したと話しました。また彼女の上司が出て「工場見学のマニュアルの通りに対応しただけで、外国人受入拒否のつもりはない」と言われ、工場長も外国人差別したことを認めなかったので理事長が「要望事項」を作成し、「ライオン明石工場」だけではなく、ライオン本社にも送りました。次の日、明石の工場長らがKFC事務所に来られました。彼らは「マニュアルの中では同業他社、外国人の方の見学をご遠慮いただくと表記している。しかし本来なら、リスクがある同業他社の方や日本語での対応できない場合に限り、工場見学をお断りするとの趣旨まで含めて明示されるべきだが、その部分が抜け落ちた」と弁明しました。約１ヶ月の間何度も来られたが、外国人差別を認めませんでした。しかし、ライオン側が「改善する」との約束をしたことで終わらすことにした。和解した印として、（他者の工場見学をキャンセルし）ライオン明石工場を見学することにしました。非常に手厚いサービスの工場見学でした。

私が来日した1981年頃は、民間だけではなく公共機関でも「外国人を受け入れない。外国人はだめだ」などと普通に発言したり、書いたりしてありました。入居差別・就職差別が普通に起きるので差別されても当たり前だと思うようになり、抵抗もしなくなりました。今は差別が全くなくなったわけではありませんが、他の理由にするか遠回しに言って断ることが多くなっています。今回のように「平然と言う」ことはめったにありません。Aさん自身は「外国人は受けつけていない」と言った時には「差別している」ことだと認識してなかったと思います。彼女によると年２，３件の外国人団体を断り続けたと言っていました。断られた方も何もしなかったので長い間、問題が題在化しないままで今日まで続けられていました。

今回の外国人差別はKFCによって、ライオン明石工場が人権について認識し直す機会になったと思います。これが最後の外国人差別になればと願っています。　(ハ ティ タン ガ)

## ■■■ＫＦＣ日本語プロジェクト■■■

### ◆2014年4月8日（土）ＫＦＣ研修会　報告

今回は1年ぶりの研修会の開催であることもあり、初心にもどりＫＦＣの歩みとボランティア活動についてＫＦＣの金宣吉理事長より話をしてもらいました。
紙面の関係上、ほんの一部ですが、研修会で資料として配布した「21世紀ひょうご2014Vol.16」の記事からの抜粋を記載します。

**国籍や民族を超えた共生社会づくり～ＫＦＣのあゆみをふりかえる～**

**●ＫＦＣ前身組織による被災外国人支援**
阪神・淡路大震災後、民団（在日本大韓民国民団）、総聯（在日本朝鮮人総聯合会）や華僑総会による被災外国人住民への支援が開始された。
国籍を超えた支援は、地域住民として共生してきた神戸の歴史が生みだした助け合いであった。
これら既存の在日外国人組織とは別に新しい市民による外国人支援活動も開始される。
震災直後、在日ベトナム人たちが最も困ったことは、言語の問題であった。日本人被災者と生活上の問題で緊張関係を抱えていた。
これらの問題に対処するために、従前なら交わることのなかったカトリック教会関係者、日本ベトナム友好協会関係者、ボランティア学生、難民定住促進センタースタッフらが、接点を持ったことで神戸の市民活動としての被災外国人住民支援は横のつながりを得て、「被災ベトナム人救援連絡会」が生まれる。
また、震災後、阪神間で震災前から活動していた日本人と在日コリアンらによる在日コリアンの人権擁護運動、民族教育活動ネットワークのバックアップを受け、長田区の菅原地区に定住外国人住民の生活相談、在日コリアン高齢被災者への訪問活動などを実施する「兵庫県定住外国人生活復興センター」が発足する。

**●ＫＦＣの発足**
2つの在日外国人支援活動、被災ベトナム人救援連絡会と兵庫県定住外国人生活復興センターは、支援の重なりと問題の日常生活への移行を受けて、1997年2月11日、神戸定住外国人支援センター（略称：ＫＦＣ）に統合される。

**●ＫＦＣのあゆみ**
「共に生きる」社会づくりを目的に発足したＫＦＣは、Ｉｄｅｎｔｉｔｙ、Ｃｏｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ、Ｅｑｕａｌｉｔｙ、Ｒｉｇｈｔｓ、Ｌｉｆｅの言葉の意味をつないだ「自分らしさを大切にしながらひとと心を通い合わせる。すべての人の平等を考えて人権の実現と命の輝きを求める」という理念をつくり活動している。
事業内容は、当初は相談、日本語学習支援、関連機関への提言、民族文化の育成という範囲であったが現在では高齢者支援、子ども支援、調査研究にまで事業が広がっている。
活動拠点も拡大し現在では、高齢者支援事業施設、設置管理しているアジア武道道場も含め新長田駅近くに5か所の拠点を設け事業を展開している。
中でも日本語支援、高齢者支援、子ども支援は、全国の支援においても屈指の規模となっている。
ＫＦＣは、母語も文化も背景も異なる人間が同じ場所で住み働くことは容易なことではないことに翻弄され、日々悩み、時に立ち止まり動いている。しかし多民族化していく日本社会の共生は、ＫＦＣが抱える葛藤や模索とともにあると考える。

ＫＦＣの葛藤や模索を通して見えてきたものは、多数者（日本人）、少数者（外国人）にとって「癒し」にはならないかもしれない。しかし共生を希求する人たちのやさしさが生みだした貴重な地平である。言葉やスローガンではなくＫＦＣが、国籍や民族を超え共生社会づくりに向け共に働き、共に歩んでいることは確かであり誇りうることだと考えている。

阪神淡路大震災でプレハブの事務所で始めた活動でしたが、今あるようなＮＰＯとなりました。

被受益者とボランティアと地域社会の「三方よし」、今後もこの精神を忘れずに共に発展していきましょう。（奥 優伽子）

**②　夜グループの様子**

月曜日と木曜日の午後７時前後、仕事を終えた疲れも見せずメンバーが教室に集まり始めます。

程なくして、一生懸命説明する声あり、文をリピートする声あり、おしゃべりありで、熱気にあふれかえります。

4月16日現在、支援者10名、学習者15名でほぼマンツーマンで学習しています。

これ以上はもう教室に入らないなあと頭ではわかっているんですが、また学習申込みを受け付けて、、。

支援者さんとの組み合わせは、なんというか、まるで自転車操業です。（奥 優伽子）

---

**■■■ＫＦＣ外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■**

**◆平和学習＆離宮公園で遊ぼう！**

4月2日、春休み最後の水曜日に学習支援の春の交流会を開催しました。

今回はKFCの学習支援教室で勉強している小学生を対象に須磨区の平和学習と、須磨離宮公園での交流会を目的に実施しました。当日は7人の小学生が参加しました。新3年生が2人、新4年生が2人、新5年生が1人、新6年生が2人と、3年生から6年生までいろいろな学年の子どもが集まりました。

「神戸平和マップを作る会」が作成している須磨区の平和マップをもって、13時半にKFCの教室を出発し、鷹取教会近くの満福寺からスタートしました。合計7か所のポイントを見て回りました。それぞれのポイントでは、平和マップを作る会の事務局長で、普段学習支援でお世話になっている小城智子先生が、紙芝居やカードを使って、わかりやすくポイントの説明をしてくださいました。空襲で焼けた石垣や、灯篭を実際に見ながら、戦争の悲惨さを感じ、じぶんのまちを新しい視点で歩くことができたのではないでしょうか。

3つ目のポイントであった妙法寺川公園では、満開の桜のトンネルを歩きながら、ちょうちょを追いかけたり、木に登ったり、お花見気分も味わうことができました。鷹取教会から須磨離宮公園までおよそ3kmの道のりを、平和マップのポイントを回りながら、1時間ほど歩きました。途中でみんなでお茶を飲んで休憩をしたり、高学年の子どもが他の子どもの荷物を持ってあげたりと、春の日のハイキングにもなりました。

須磨離宮公園には『子どもの森冒険コース』というフィールドアスレチックがあり、合計28の遊具には、迷路やネット、グラグラする丸太の橋などがあったそうで、汗をかきながら、みんな元気にゴールしてきました。何度もアスレチックに挑戦する元気な子どもたちの体力には驚かされ

ました。なんと3回もチャレンジした子どももいました。
平和マップには、1945年1月3日から8月まで8000人以上の人が亡くなったと記されています。多くの人の命が失われたことに対して、子どもたちは「ひどい、かわいそう」と口々に感想を言っていました。「焼夷弾（しょういだん）」や「防空法」など、子どもたちにとっては、はじめて知る言葉もあったようで、実り多い平和学習となったことでしょう。今後の勉強や6年生での修学旅行に今日の平和学習の経験がつながることを期待しています。
　KFCの学習支援教室では、これからも楽しく、充実した交流会を企画していきます。（薮田 直子）

---

**■ ■ ■ KFC中国帰国者支援事業 ■ ■ ■**

**◆秧歌踊りは中国の伝統芸術**
　秧歌踊りは中国の東北地方で民間の伝統芸能です。民間広場の集体踊りです。変換各種隊型邉舞、姿は美しく、赤、青、ピンク、緑の色々な衣装を着ています。
　楽曲演奏や太鼓、シンバルなどの音に合わせて、帯や扇を振りながら歩きます。踊り始めると心身ともに活発化し気分も最高でストレスから解放されます。
　祝祭日や正月には興味を持った人が参加してくれました。神戸秧歌隊は昨年結成しました。そして神戸花舞台で披露しました。
　今年5月18日も同じ花舞台に出演します。今は私たちは秧歌踊りをまじめに練習してがんばっています。　（劉 桂 麗）

---

**■ ■ ■ ハナの会■ ■ ■**
**◆ハナの会識字活動**
　ハナの会は識字教室「ひまわりの会」の協力を得て識字活動を続けています。利用者の皆さんは学齢期に戦争や貧困により学校へ行けなかった方が多くて、識字の時間では「私は学校へ行っていない」という話をしながら熱心に勉強しています。しかし、ハナの会の利用者の方が年々と年を取ってくることにより、少し多めの文字を書くと手が震えてきたり、目が痛くなってきたりと体力が落ちてきています。それに従って、今までの練習プリントに書くという勉強スタイルが難しくなって来て見直しが必要となりました。
　以前識字の時間は、午前10：30から始まり、まず歌を歌いその後に文字を書きもう一度歌を歌うというスタイル（歌３分→書く２５分→歌３分）でした。これを一体どのようにしたらいいのかをスタッフとボランティアの方々といろいろと議論を行いました。その中では、利用者さんは体力も落ちてきているし、午前中お風呂などで疲れを訴える方が多いので、もう限界ではないかとの意見もありました。しかし、一方利用者の方たちは昔に学校行きたくても行けず、学齢期やその後の生活でも一所懸命働いてきた分、勉強する機会を失い、今になって時間などに余裕が出来て毎回楽しみにしているのでハナの会として識字の時間を大切にし続けるべきだとの意見も出ました。それからスタッフとボランティアで３ヶ月かけて試行錯誤を行いました。
その結果書くことより、音読の時間を多めに取ったほうがいいことに気づいたのです。識字の時間になるとホワイトボードで音読の資料（早口言葉や詩）を書いて準備をします。これは、利用者の皆さんにとっても「そろそろ勉強ですよ」という合図にもなるようで、ホワイトボートを見にきたり、或いはもう少し横になれるとこちらの様子を伺いながらソファでお風呂の疲れを取っている方もいます。
　そして時間になりますと、まず全員にプリントを配り、皆と一緒に歌を歌います。次に、早口

言葉などの音読を行います。音読では、スタッフがゆっくりと皆と一緒に読みます。それを何回か続けた後に利用者さん一人一人に呼んでもらいます。そして全員で一緒に何回か読んでスピードをどんどん早くしていきます。ハナの会の識字資料は「ひまわりの会」の先生方が準備したものであり、文化的な配慮により韓国の地名や食べ物を題材にした早口言葉などがあります。在日コリアンの利用者らもそういったものを早く言えるし、地名なら「私はここの出身、そこは寒いところ」と話題もどんどん広がります。そして、書くテキストに移ります。そこでも書くテキストが長い物語の場合は皆で２回ほど一緒に音読します。ボランティアの先生も一人一人に書く文書を教えながら、添削していきます。最後に皆で一緒に歌を歌い終了します。（歌３分→音読１０～１５分→書く１０分→歌３分、）

ハナの会では、高齢化に伴い元気な一世が少なくなり、少し前までは古い韓国の歌詞を渡したら歌えていましたが、今はなかなか声が出なくてとても寂しいです。しかし、今年は（２月２８日）になかなか招待状をいただいても行けなかった「ひまわり会」の発表をハナの会で一緒に見に行き、昔からお世話になった先生たちとお会いすることが出来て皆とても嬉しそうでした。これからもハナの会として、ボランティアの皆さんと協力しながら楽しい識字活動に取り組んでいきたいです。 (呼和德力根)

---

**◆小規模多機能の魅力を発信！**

この4月から小規模多機能型居宅介護ハナに異動し、約1か月がたちました。

「小規模多機能型居宅介護って何」と思われる方も多いですが、通い(デイサービスのようなもの)、訪問（ヘルパーさんが自宅に行きます）、泊りのサービスを自由に組み合わせることができ、同じ職員、同じ施設でサービスを受けることができます。しかも、1か月定額のため、サービスを使いすぎて
単位数がオーバーするのでは、という心配がありません。

小規模多機能は、自由度の高さと、臨機応変なサービスが魅力ですが、逆にいうと、職員は、様々なサービスを行わないといけないので、「できるかしら」との不安の中でスタートしました。特に、訪問介護は経験がなかったため、どきどきでした。最初は、慣れた職員に同行してもらい、2回目からは、1人で行っています。通いで、施設に来られている時と表情が違い、皆さまリラックスされています。

まだ、それほど回数をこなしていませんが、その人の生活が見え、話題の幅も広がった気がします。中国帰国者の人が多いため、片言の日本語でコミュニケーションをとりながらしていますが、それも、また楽しいです。

小規模多機能のケアプランを作成するのが私の仕事ですが、まず、現場を知ることが、より良いプラン作成につながると思われ、少しずつですが、出来ることを増やしていきたいと思います。

ＫＦＣの運営する小規模多機能型居宅介護の魅力を神戸市に発信し、神戸の社会資源となれるように微力ながら努めていきたいです。今後とも、よろしくお願いします。（森 佳緒里）

---

**■■■ 今後の予定■■■**

**■ＫＦＣ2014年度総会＆学習会**

5月24日(土)

18:00～19:00　学習会「在日コリアンとは」

李圭燮（KFC副理事長）

19:00～20:00　2014年度総会
於　KFC事務所

**■中国帰国残留邦人帰国者交流事業**
5月18日(日)　神戸まつり出演
6月10日(火)　舞鶴遠足

**■KFC研修会**
6月14日(土）13:30～15:00
「在日ベトナム人理解講座②ベトナム人にとって日本語学習の何が難しいか」レ ティ フエ(神戸大学留学生）
7月12日(土)　13:30～15:00
「日本とベトナムとの関係(仮題）」
長沼 幸正(日本ベトナム友好協会）
於　KFC事務所